

教職に必要な5つの領域・領域別のねらい

領域A 主として教育課程の編成・実施に関する領域	
学校の教育課程を把握し、それを適正に実施できる。	
1	教育課程作成の基となる次の諸事項を理解し、教育課程を編成できる。 ①国や地方自治体等の学校教育の重点施策 ②学習指導要領 ③学校教育目標 ④学校経営方針 ⑤児童・生徒一人ひとりの状況 ⑥教育活動及び指導計画の重点化・特色化
2	教育課程を計画的に実施できる。
3	教育課程に基づく到達目標を作成し、その評価ができる。
4	教育課程に関する基本事項を初任者に指導できる。
領域B 主として教科等の指導方法に関する領域	
児童・生徒の学習状況を把握しつつ、明確なねらいをもった授業を適切に実施できる。	
1	学習前の実態把握をはじめとし、授業実践とあわせた評価の計画（学習前、学習中の評価と評価に基づく指導、学習後の総括的評価）の必要なことを理解し、その計画が立てられる。
2	各教科等の年間計画や緻密な教材研究に基づいた学習指導案の作成ができ、本時における明確な指導目標にそった授業ができる。
3	効果的な指導技術（発問、指示、説明、板書、資料提示等）を用い、その授業にあった指導形態（個別、グループ、一斉、少人数等）での指導ができる。
4	上記について初任者や教育実習生に対して指導できる。
領域C 主として生徒（児童）指導・教育相談に関する領域	
児童・生徒の問題行動等への対応が主体的かつ適切に実施できる。	
1	児童・生徒の問題行動について、その原因等を分析し対応ができる。
2	児童・生徒に対し問題行動等を指導する際の配慮事項がわかる。
3	学級・学年で発生した問題行動に対して、全校や学年間での組織的な対応ができる。
4	特別な支援を必要とする児童・生徒を把握することができ、その児童・生徒に応じた支援の考え方や方法を理解し、その考え方に基づいた指導ができる。
5	関係機関と連携した安全教室等、生活指導全般についての企画・調整・実施ができる。
6	上記について初任者や教育実習生に対して指導できる。

児童・生徒会活動や学校行事などについて、担当者として企画・調整・実施にあたる。

- 1 特別活動の意義を踏まえ、児童・生徒委員会の担当者として児童・生徒の活動の援助ができる。
- 2 学校行事の実施について、その行事に合わせたねらいを明確にし担当者として実施ができる。
- 3 上記について初任者や教育実習生に対して指導できる。

領域D 主として学級経営・学校経営に関する領域

担任として安定的に学級を経営し、保護者との信頼関係を築くことができる。

- 1 校長の学校経営方針など学校全体の学校経営計画に基づいた学級経営案を作成することができる。
- 2 学級の組織作りや学級環境の整備など緻密な学級経営ができる。
- 3 適切な内容の学級通信の定期的な発行など、保護者との信頼関係作りのための努力がある。
- 4 保護者面談などでの配慮事項を理解し、実践できる。
- 5 上記について初任者や教育実習生に対して指導できる。

学校の組織や協力体制に基づき、組織の一員として適切に公務を分掌し遂行できる。

- 1 学校における職務は全て学校長の指示のもとに作成された校務分掌に基づいていることを理解し実践できる。
- 2 学校における管理職や主幹教員（一部地域では総括教諭）の役割や責任を理解している。
- 3 避難訓練や安全指導などは学校の安全計画に基づいて実施されていることを理解し、非常時の自らの役割を理解し、絶えず意識している。
- 4 上記について初任者や教育実習生に対して指導できる。

領域E 主として学校教育・教員のあり方に関する領域

学校教育の充実・改善に向け、他の教員と協力して職務を遂行できる。

- 1 校長の経営方針に基づいた自己の目標を作成することができる。
- 2 校内研究会などに絶えず建設的な立場で臨むことができる。
- 3 上記について初任者や教育実習生に対して指導できる。